



Yusuke Aonuma



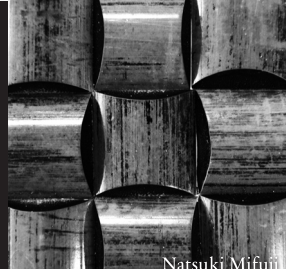
Bridge in Green School



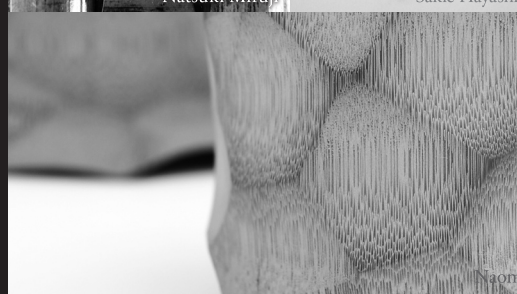
Takuya Takahashi



Sakie Hayashi



Natsuki Mifuj



Naomi Teirna

### 竹の作品展示

09 **11.24** [tue] - **28** [sat]

本学9号館1階 webスペース +10号館前芝生

同時開催：学生による竹の民具展 9:00-17:00 民俗資料室にて

### 公開シンポジウム

09 **11.28** [sat] 13:00-16:00

本学1号館103教室

- ゲスト：  
 ジョン・ハーディー (バリ島 グリーン・スクール 主宰者)  
 杉井正澄 (Y150 ヒルサイドエリア会場ディレクター)  
 日詰明男 (造形作家・龍谷大学客員教授)

- 本学教員：  
 板東孝明 / 宮島慎吾 (基礎デザイン学科)  
 伊藤真一 (工芸工業デザイン学科) / 望月昭 (造園学)

# 竹の造形・その未来



主催：武蔵野美術大学  
 お問い合わせ：  
 武蔵野美術大学 研究支援センター  
 EDS竹デザインプロジェクト **bamboo**  
**good design dome**  
 〒187-8505 東京都小平市小川町1-736  
 tel. 042-342-7945 fax. 042-342-7942  
 mail. h-hashimoto@musabi.ac.jp (橋口)



EDS Bamboo Design Project  
Musashino Art University

4m Tensegrity Bamboo Dome: Takaaki Bando



Take no Unabara: Masasumi Matsui  
photo: EIJI KITADA



FIBONACCI TUNNEL: Akio Hizume



## 竹の作品展

09 **11.24** [tue] - **28** [sat]

本学9号館1階 webスペース+10号館前芝生

同時開催：学生による竹の民具展（民俗資料室にて）

主催：民俗資料室

## 公開シンポジウム

09 **11.28** [sat] 13:00 - 16:00

本学1号館103教室

武蔵野美術大学がEDS竹デザイン・プロジェクトに取り組んで2年。竹の造形への取り組みによって開発途上国を支援し、持続可能な社会をになう造形指導者の養成をめざしています。

今回のシンポジウムではゲストに3人の竹の先駆者をお招きします。インドネシア・バリ島で「家具から教員住宅、校舎、橋」までふんだんに竹を取り入れたグリーン・スクールを主宰し、人間と自然の本来あるべき関係を模索する教育を生活環境までふくめて実践しているジョン・ハーディー氏。荒廃する里山再生をめざし、竹の有効利用を考えて設営した「竹の海原」で、有機的空間を実現した建築家、梶井正澄氏。ニューロ・アーキテクチャー（竹の都市 / 竹の幾何学 / 竹の音楽）で新しい都市空間のモデル化に取り組む造形作家、日詰明男氏。

本プロジェクトの教員を交えて行われるパネルディスカッションでは、竹の可能性に理解を深め、環境問題に対する役割を提案し、これからの国際貢献のあり方を探ります。

本学教員：  
板東孝明 / 宮島慎吾（基礎デザイン学科） / 伊藤真一（工芸工業デザイン学科） / 望月昭（造園学）

1-3: 自然の中に点在するグリーン・スクール校舎（ジョン・ハーディー氏）  
4-6: フィボナッチ・トンネル / フィボナッチ茶室（日詰明男氏）  
7-8: 竹の海原（梶井正澄氏） photo: EIJI KITADA



### ジョン・ハーディー



インドネシアに古くからある銀細工に着目し、ジュエリーデザインで世界的に成功をおさめ、私財を投じて教育施設「グリーン・スクール」をバリ島に開校。25カ国の子供たちが学び、すべての校舎、教員住居から机、椅子にいたるまでが竹でつくられている。敷地内に有機農場、川を利用した水力発電施設をもつなど循環型生活の実践に取り組む。また、「PT BAMBU」という企業を立ち上げ、世界に竹による生活の提案を行う。現在、アフリカ・セーシエルの島々に、竹によるリゾート施設を実現中。

### 梶井正澄



photo: OOKI JINGU

今年開催された横浜開港150周年イベント「開国博 Y150」においてヒルサイドY150つながりの森会場ディレクターをつとめる。荒廃した里山の再生をめざして、放置林から竹の伐採を市民とともにに行い、日本最大級の竹の建築物「竹の海原」を制作。建築材としての竹の需要を生み出し、地産地消システムの構築する実験的活用として提示。数々の建築作品の他、和泉川などのランドスケープも手がける。株式会社アトリエド（Team Zoo Atolier ToDo）を主宰。

### 日詰明男



日本だけでなくアメリカ、スイス、インドネシアなど世界的に活躍する造形作家、建築家。黄金比に代表される無数の自己相似構造を幾何学的に考察し、造形や音楽で表現する仕事を一貫して続けている。公開展示期間を含む2週間にわたって本学で開かれるワークショップでは「ニューロ・アーキテクチャー（竹の都市 / 竹の幾何学 / 竹の音楽）」と題し、ペンローズスタイルに従った五角形の区画（インフラ）を作成。学生たちは各自自由に活用を考える。幾何学的な音楽、造形に直に触れ、その構造を身体化していく。龍谷大学客員教授。

## 公開展示 + シンポジウム

# 竹の造形・その未来

主催：武蔵野美術大学

未来が差し出してくれた希有の贈りもの、竹。  
いずれ化石燃料が枯渇する時のために、  
いま「生きたカーボンファイバー」を考える。



お問い合わせ

武蔵野美術大学 研究支援センター  
EDS竹デザイン・プロジェクト  
〒187-8505 東京都小平市小川町1-736  
tel. 042-342-7945 fax. 042-342-7942  
mail. h-hashimoto@musabi.ac.jp (橋口)

武蔵野美術大学へのアクセス

1. JR 中央線国分寺駅下車  
武蔵野美術大学行き or 小平営業所行き  
武蔵野美術大学下車
2. 西武国分寺線鷹の台駅下車 徒歩20分

